



須坂市社会福祉協議会長賞

パニック状態の中で受けた親切

『救急車を呼んでいただけますか』

加藤やす子（須坂市）

昨年の春先、私は主人と一緒に外出をし、帰り道に買い物をするためスーパーに寄りました。主人は以前から糖尿病を患っており、その合併症で発症した脳梗塞の後遺症があります。一緒に買い物に行くと私とは別行動を取り、リハビリの一環として店内を歩き回る習慣があります。その日もいつものように別行動を取り、私は買い物をし、主人はいつものリハビリをしていました。

私が買い物を終え、レジで会計を済ませていると、主人は店の隅にある休憩所に座っていました。「疲れたのかな？」遠目に見ていた私はそう思っていました。近づいてみると低血糖の症状が出ていました。だんだん意識が無くなっていき、私はパニックに陥り、その場であたふたしてしまいました。そのとき『どうしたんですか？』親子連れの方が声を掛けて下さいました。私は「救急車を呼んでください」と慌ててお願いしました。『救急車って何番にかけるんだっけ』その方も慌てた様子でしたが電話をして下さって、無事救急車が到着し、主人

を須坂病院に搬送することができました。

「お名前を教えてください」『いえいえ、名前なんて』結局その方にお名前を教えていただくことはできませんでした。用事があったのでしょうか、救急車が到着したのを確認するといなくなってしまうしました。

今思い返せば、私も自分の携帯電話を持っていたので自分で救急車を呼べばよかったのかもしれませんが、声に出して「助けて下さい」と言えばよかったかもしれませんが、パニック状態でそんなことも忘れていたようです。だからこそ、声をかけてくださった親子連れの方に心から感謝しています。

あれ以来、主人は

糖尿病を患っています。助けてください。

◎低血糖で失神などの発作を起こしたときは

- ① ポケットの中にある『ブドウ糖』か『アメ』か『缶ジュース』を投与してください。
- ② 失神が続くようでしたら『救急車』を呼んでください。

医療機関 ①長野市民病院 026-295-1199

②須坂病院 026-245-1650

◎大助かりです、ありがとうございました。

という紙を作り、どこへ行くにも持ち歩いています。

この体験から、『すみません、困っています、助けてください』弱い者から声を掛け、胸を張って助けてもらい、感謝する。そんな理想の社会ができればいいなと思うようになりました。

